2001・10・5

特別会費に対する答申（案）

座談会　会費担当

１．青年会議所活動における各種大会参加の考え方

　　青年会議所運動の優れている点のひとつに、志を同じくするメンバーが全国に数万人おり、同じ精神で活躍する会議所が７５０余あるということが挙げられる。もし、ひとつの事業を進める際に、どのような活動をするのか、どう取り組めばいいのか、もっといい方法がないか、連携先は？など、さまざまな問題に直面しても、そこには必ず適切なアドバイスをしてくれる仲間がいるのである。

　各種大会の参加は、井の中の蛙になりがちなＪＣ運動に、おおいなる刺激と様々な出会いを与えてくれる。そこには、参加者の取り組み方によっては実に多種多様なチャンス（個人の資質を向上させるチャンス、ビジネスチャンス、生涯の友を得るチャンス、人生観や価値観、物事の考え方を変えるチャンスなど）が転がっている。そのチャンスをものに出来るか否かは、メンバー一人一人にかかっているのである。そんなチャンスが盛沢山に詰まっている、これがＪＣのひとつの醍醐味だろう。

　また、各種大会参加は、ＬＯＭの例会、委員会事業・活動と同様に山形ＪＣメンバーの修練と友情を育む貴重な機会を提供する場でもある。多くの場合宿泊を伴い、寝食を共にすることにより、普段の活動では得られない友情が芽生える。また、時間的・金銭的負担を当然伴うが、何とかやりくりして参加できるように自らの仕事、職務を事前にこなし、自分がいなくても企業運営ができるスタッフを育成することも、メンバーの修練といえる。

　さらには、山形ＪＣのメンバーであることは山形ブロック協議会・東北地区協議会・日本青年会議所・国際青年会議所のメンバーということでもあり、それらの会員大会を人的・財政的に支えるという意味合いもある。

２．特別会費から特別年会費へ

　以上の趣旨から、青年会議所メンバーとして各種大会への参加は全員が積極的に取り組むべきものである。大会参加は一部のメンバーのものではなく、みんなのものなのだ。大会に参加することは特別ではなく、あたりまえのことで、参加しないことが特別なことなのである。そして、その意識を高め、またより参加し易いものにするため、全員一律に年会費的な徴収の仕方が望ましいと考える。それにより、各委員長もメンバーに参加を呼びかけ易くなるだろう。

　「ＪＣは受益者負担」という言葉があるが、それは実際に参加するメンバーは自分の時間とお金を使い大会開催地に赴くわけであるから、まさに受益者負担ではないだろうか。もう一度認識してください。大会参加は「ＪＣメンバーみんなのもの」なのである。

　具体的な徴集方法としては、事前登録用に早めに支払う必要があること、集金業務の簡

素化を考えると、「特別年会費」として年会費と一緒に集金するのが最も実務的であり合理的である。

３．金額算出方法

ここで各種大会とは、山形ブロック会員大会、東北青年フォーラム、全国会員大会、サマーコンファレンス、ＡＳＰＡＣ、ＪＣＩ世界会議、全国城下町シンポジウム等を指すが、当該年度の事務局が諸事情を判断して、その内容（案）を作成し、次年度理事会の中でよく協議し承認を受け、総会で決定する。

その際に重要なことは、必要かつ十分な金額をいかに算定するかである。その際、算出方法としては、各種大会登録料と過去の登録実績、当該年度の参加目標をもとに、登録＝参加となるように、そして、出来るだけみんなで参加できるようバランスよく金額を算出する。

４．清算方法

実際の登録が予定を下回り余剰金が出た場合は、清算せずに次年度に繰り越すことを原則とし、その処理方法は理事会にて決議する。受益者負担という理由で個別に清算する方法もあるが「メンバーとして各種大会へ参加すべきである」のに、参加しないと返金する方法はその趣旨に合致せず、逆に「参加しない方が金銭的に得」というマイナス志向の考えにミスリードする可能性もあるからである。もし万が一不足した場合は、当然メンバーが均等に追加負担する。

５．管理方法

当然ながら　登録＝メンバーの参加　であり、事務局は参加のない登録はせず、貴重な特別年会費を有効に使う努力をしなければならない。事務局は特別年会費会計を管理し、登録が全て終了した段階で決算書を作成し、監事の監査を受けた後、理事会の承認を得ることとする。

以上のように、メンバーの各種大会への参加のあり方を理解し、より参加し易くするために、様々な方法の中からこの「特別年会費」による方法が最も望ましいと判断し、ここに答申する。

２００１年１０月５日　制定
２００８年　１月１日　改定